Book Preview

富山高校図書館　2025.12

『　どうせ世界は終わるけど　』

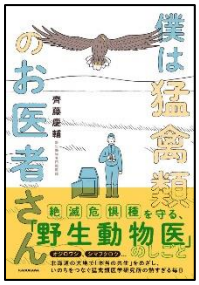
結城 真一郎【著】

人類滅亡の危機がやってくる――ただし百年後に。世界を駆け巡った衝撃ニュースだったが、「終末」を意識させるには、小惑星衝突までの猶予が長かった。人々のささやかな勇気が少しずつ重なり合い、世界に希望をともしていく奇跡の連作短編集！ベストセラー『#真相をお話しします』著者にして、ミステリ界のエースががどうしても描きたかった、未来なき世界で“希望”を編む人々の物語。

『　１７歳のときに知りたかった受験のこと、人生のこと。　』

びーやま【著】

「大学受験」は10代における最大のイベントです。それほどまでに大学受験の持つインパクトは大きいものです。本書は、きれいごとを抜きにして、「大学受験とはどういうものなのか」「人生とはどういうものなのか」を考えることができる１冊です。また、受験生や大学生だけでなく大人も読める！大学受験の価値観や形式は日々変わり続けています。自分たちが学生だった頃と今の受験生の状況はまったく異なります。本書では大学受験業界の第一線で活躍する著者だからこそ提供できる情報をふんだんに盛り込みました。受験生を持つ親御さんも必読の１冊です。



『　僕は猛禽類のお医者さん　』

齊藤 慶輔【著】

北海道釧路市にある、日本で唯一野生の猛禽類を保護・治療する施設、それが「猛禽類医学研究所」。自動車や列車との衝突事故、風力発電の風車への巻き込まれ事故、そして狩猟につかわれる鉛弾での鉛中毒などにより、多くの野生の猛禽類に被害が出ています。彼らの命を守るべく立ち上がったのが、獣医師である著者。猛禽類医学研究所の立ち上げ、仲間の獣医師やスタッフ、関係者との出会い、そして保護活動と前例のない治療……。鳥たちとのドタバタな日々を送りながら、いますべての人に伝えたい「本当の共生」とは？

『　戦争まで―歴史を決めた交渉と日本の失敗　』

加藤 陽子【著】

かつて日本は、世界から「どちらを選ぶか」と三度、問われた。より良き道を選べなかったのはなぜか。日本近現代史の最前線。この講義の目的は、みなさんの現在の日々の生活においても、将来的に大人になって社会人になった後においても、交渉事にぶちあたったとき、なにか、よりよき選択ができるように、相手方の主張、それに対する自らの主張を、掛け値なしにやりとりできるように、究極の問題例を挙げつつ、シミュレーションしようとしたことにあります。

『　天使の跳躍　』

七月 隆文【著】

40歳までタイトルを獲れなかった棋士は、引退まで無冠に終わる―。それが才能と加齢による限界がもたらす、将棋界の残酷な歴史。田中一義は４６歳。かつて５度のタイトル挑戦に敗れ、あと一歩で栄冠に届かなかった『悲運の棋士』。それでも諦めずにきた彼に奇跡が微笑み、念願のタイトル挑戦権を手に入れた。だが迎え撃つ相手は『令和の王』―源大河八冠。まだ一度もタイトル戦で敗れたことのない、全盛期の若き天才。それは誰もが絶望する、中年棋士のラストチャンスだった。家族と戦友、元天才の弟子との絆。初恋と、青春の残光…これまでの人生すべてを星のごとく燃焼させる一義は、神の子に届くのか。峻烈な才能の世界と家族愛をみごとに描いた、傑作。